



俺は、木で喰っていく。

「製材所とは何か？」…そう聞かれたら、俺は、「森と都市をつなぐ拠点だ」と答える。

もちろん格好いいことばかりは言ってもらえない。課題は掃いて捨てるほどある。昭和30年代最盛期に多摩地域に500軒あった製材所が今は約30軒、そのうち毎日稼働しているのは10軒に満たない。木材価格は低迷し、しかも他地域の材や集成材との価格競争も激しい。無垢材の特性を理解してない輩は、厳しい納期を課してくる。「こんな商売は息子には継がせられない」と廃業する仲間も少なくない。

だが、有限会社沖倉製材所は今も毎日活発に製材機の音を響かせ、誇りをもって適材適所の「ものづくり」を続けている。地産地消を基本とする優良工務店と連携しての木の家づくりに力を入れ、節が多かったり細かったりする規格外の材でつくる木製品シリーズ【SMALL WOOD TOKYO】でも新たな道を探りはじめたところだ。今、大量に伐られている人工林のスギ・ヒノキを使わなくてどうする？ 地元の材を活かせば、地球環境への負荷を大きく低減できるし、俺たちの心身の健康にも大いにプラスになる。

一本でも多くの多摩産材を世に送り出し、製材の仕事を通して自然と人が調和して生きられる未来をつくっていくのが俺の使命だ。

逆風が吹いていても、俺は、木で喰っていく。



【講師プロフィール】

沖倉喜彦

有限会社沖倉製材所代表取締役
一級建築士・秋川木材協同組合理事長
東京都木材流通対策協議会委員

創業者・沖倉喜代治のあとを継いで平成6年に有限会社沖倉製材所代表取締役となって19年。平成16年からは秋川木材協同組合理事長として地域の木材関連業者を取りまとめ、工務店・設計士と連携して多摩産材をつかった家づくりを推進。あきる野市伊奈新宿神輿会二代目会長、あきる野商工会理事など、地域活動のまとめ役も率先して務める。その威勢よく粋な気性から、「森の番長」とも呼ばれている。

東京建築カレッジ第16回公開講座 受講申込書

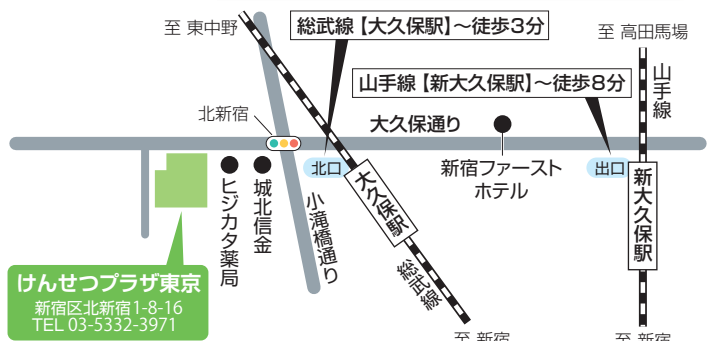
氏名		電話	
住所	〒	F A X	
所属団体	東京土建 その他団体 ()・個人	公開講座 参加回数	

申込方法 受講申込書に必要事項を記入の上、ファックスまたは郵送で事前にお申し込みください。

※中学生以上の学生、学校関係者、建設関連従事者、行政関係者、一般消費者、どなたでも参加できます。ふるってご参加ください。

【東京建築カレッジ・公開講座とは】

東京建築カレッジは、伝統技術・技能を重視し、新時代に求められる家づくりの担い手を育てる学校です。毎年、日本の木造建築技術や木の文化をテーマに公開講座を開催しています。技術の担い手、木材の生産者、業界の方々と一緒に考える場として無料で開催しています。



俺は、木で喰っていく。

多摩の森は、良材の宝庫だ。
今、これを使わずしてどうする？
森と都市をつなぐ製材所の仕事を
「森の番長」が熱く語る！

講師

沖倉喜彦
(有)沖倉製材所代表取締役

2014年1月19日(日)

12:45開場 13:15開会

【会場】 けんせつプラザ東京 JR大久保駅
北口徒歩3分

【参加費】 無料 【定員】 200名